

仕事楽しい人 F i l e . 1 2 : 平野恵子さん (お母さん)



平野恵子さんとアッチちゃん

#### ◆平野さんの子育て奮闘記

平成6年2月20日に、アッチちゃん(敦子ちゃん)が生まれました。

その1週間後に、アッチちゃんがダウン症であると医師から伝えられました。

この話を聞いて平野さんは、アッチちゃんを

「立派な人に育てよう」とファイトがわいたそうです。

この時にみなぎった平野さんの“ファイト”が、

以降、平野さんがお母さんとしてアッチちゃんに関わる上で、大きな問題となりました。

平野さんは、アッチちゃんに障害があってもそれを乗り越えさせて、ある種のエリートにしようと、合唱団、絵画教室、クラシックバレエに通わせ、普通学級に入学させました。

そして、躰にも厳しく、アッチちゃんを育てました。

平野さんはもともと体育会系の性格で、ラジオコマーシャルの企画プロデュースの仕事に就き、25歳でフリーとして独立したため、“負けん気魂”の性根に磨きがかかっていました。

この筋金入りの平野さんの“ファイト”が、アッチちゃんに重くのしかかりました。

アッチちゃんと平野さんは、正反対の性格です。

例えば誕生日では、大勢が集まりバースデーケーキのろうソクに火を灯し、大きな声で「おめでとう」と祝うのが大好きな平野さん。

ところがアッチちゃんは、お母さんと二人で静かに誕生日を祝うのが好きなタイプです。

平野さんは、この性格の違いを理解できずに、

「大勢の人たちが敦子を祝ってくれているのに、なんで喜ばないのだろう」

あるいは、「なんてひねくれている子なの」との思いに駆られることもありました。

このような心の葛藤を繰り返しながら、子育てに孤軍奮闘する平野さんは、ある時に次のことに気づきます。

それは、「アッチャンのために」と思い、母親として一生懸命に対処してきたことは、実は、「よくここまで立派に育てたね」と自分が褒められたいがためだったんだと。

敦子のためではなく、自分のことを考えていたんだ。

だから、敦子の好みや嫌いなことに気づかず、気がついたとしても

それを受け入れられなかったんだ。

自分がいいと思うことや、やり方を、一方的に押し付けていただけ。

誕生日を静かに祝ってもらいたいと思う人もいる。

人の個性は千差万別。

私は、敦子に何をしてきたのだろう。

このことに気づいた平野さんは、アッチャンの目線で物事を捉えられるようになりました。

アッチャンは絵が大好きで、観るとホッとする、なんとも言えない味のある絵を描きます。

アッチャンには、好きなことも得意なこともある。

この長所を伸ばしてあげたい。

平野さんは、今、こんな思いでアッチャンと接しています。

#### ◆平野さんが大切にするキーワード

##### 共生

全ての命は、相互に補完し合って生きている。

娘に自分の価値観や考え方を押し付けたりしがちな自分を戒める言葉でもあります。

#### ◆平野さんのパワー○○

##### 太陽の光を浴びること

学生時代からソーラー人間と言われていました。

#### ◆平野さんの愛用グッズ

##### 湯たんぽ

冬の愛用品。アッチャンの手足を優しく温めてくれます。

◆平堀が感じ取った平野さんのファイト

平野さんの子育て奮闘記は、いかがでしたか。

私がハッとしたのは、「子どものためという思いが、実は、自分のため」という平野さんの自戒です。これは、子育てに限らず、夫婦間にも、仕事の関係者にも当てはまる心理ではないでしょうか。

子は宝。

宝を授かり、出産、育児、しつけ、教育をするお母さんは、子どもにとって絶対的な存在です。

平野さんは、笑顔でアッチャンと接するように努めているそうです。そうすると、アッチャンの心も安定するからです。

何回注意しても言うことを聞かない時には、ついつい語気が荒くなってしまうのですが、こういう場合には、深呼吸をして気持ちを落ち着け、ニッコリ笑顔を鏡で確認してから、「アッチャン、□□はどこにしまうんだっけ」と優しく話しかけます。

そうするとアッチャンは、「うん、そうだね」と言って、笑顔で片付けるのです。

いつもニコニコ笑顔で我が子と接する。

これは、簡単ではないです。

平野さんと話していると、本当に子どものためと思うのなら、この簡単ではない、“いつもニコニコ笑顔で我が子と接する”を実践しなきゃと素直に思えます。

「何で、何回言ってもわからないの！」

と、声を荒らげるのは、まさに、“自分のために”への矢印が向いている証拠なのです。

平野さんは、アッチャンの得意な絵を題材にして童話を制作したり、その絵をTシャツやエコバックにプリントしたりしています。

これらのグッズを、本コラムの取材のときに持ってきて、私に見せてくれました。

目的を尋ねると、平野さんは、

「敦子の描いた絵が人の目に止まり、『これ、可愛い』と感じて購入してくれたら嬉しいじゃないですか」

「『ハンディキャップがあるから、特別に』という流れではなく、普通に商品として店頭と並べて、『これ、いい』と選んでもらう。敦子の絵には、それだけの魅力があると思うんです」と、目をキラキラさせて、説明してくれました。

敦子ちゃんが描いたチャイナサンタ。

サンタの表情、色の塗り方、確かにホッとします。



アッチャんの得意分野を見出した平野ママ。

障害者として保護される立場に甘んじず、経済的にも立派に自立させてみせるという平野さんの“ファイト”が、ひしひしと伝わりました。

平野さんの子育て奮戦記は、まだまだ続きます。

◆お母さんに求められる能力

自分のためを捨てる：子どものためを貫く力

長い目：瞬間瞬間の出来事に右往左往しない

笑顔力：ニコニコ笑顔が、子どもの心を安定させる

個性発見：子どもの長所、短所を理解し、長所に着目する

子離れ力：子どもだけに意識が偏らず、自分も自立してみせる